2017年度　決算報告

2016(平成28)年 4月 1日から2017(平成29)年 3月 31日まで

経常収益			79,708,890
1 受取会費		265,000	
2 受取寄付金		1,742,210	
3 受取助成金等		16,315,000	
4 事業収益		61,333,244	
日中一時支援事業益	2,678,193		
放課後等デイサービス事業収益	20,291,151		
児童発達支援事業収益	272,100		
相談支援事業収益	293,020		
福祉仮設運営委託事業収益	37,798,780		
5 雑収益		53,436	

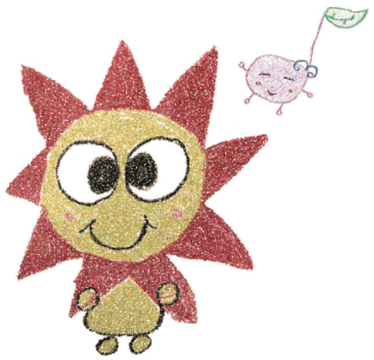
使途等が制約された寄付金等の内訳は以下の通りです。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
宮城県ＮＰＯ等の絆力を活かした震災復興支援事業 生きにくさを抱える人達が地域で生きる種を作る		4,765,000	4,765,000	
救世軍 子ども広場活動・運営人件費、車両購入費用		10,000,000	10,000,000	
真如苑 子ども広場活動・運営費として		1,000,000	1,000,000	
デンソーハートフル基金 子ども広場活動・運営費として		200,000	200,000	
認定NPO法人ゆめ風基金　ゆめ風サポートV 拠点整備に使用	3,115,087			3,115,087
大和証券株式会社　フェニックスジャパン・プログラム 企画力向上のための若手スタッフ育成	133,166	1,550,000	1,683,166	

経常費用			64,124,817
1 人件費		43,339,841	
2 その他経費		20,784,976	
業務委託費	1,386,572		
印刷製本費	299,372		
旅費交通費	193,770		
車両燃料費	1,084,716		
車両維持費	1,343,352		
通信運搬費	723,878		
消耗品費	1,355,283		
給食費	1,799,031		
水光熱費	1,565,078		
地代家賃	2,333,124		
賃借料	1,283,394		
減価償却費	3,507,581		
保険料	127,088		
イベント費用	372,970		
研修費	59,104		
租税公課	3,305,908		
雑費	44,755		
当期正味財産増減額			15,584,073
前期繰越正味財産額			28,275,708
次期繰越正味財産額			43,859,781

上記以外ご寄付をくださった方々：社福）そうそうの杜様、NPO 法人出発のなかまの会様、株）高野コンクリート様、株）主人公様、社福）ノーマライゼーション協会様、有）リバーナ様、一社）南三陸町復興推進ネットワーク様、伊豆つくし会手をつなぐ親の会様、社福）さくらんぼの会様、ヤマモト木材 (有 様、株) アルバ様、株）アイドマ様、寺田早輪子様、森川真二様 彩子様、金原裕一郎様、上田かおり様、川内田和昭様、徳岡信様、西井牧子様、那須野亮様、井上愛子様、舟橋寛延様、小西寿一様、佃美智子様、坂田康一様、三宅克英様、片野康二様、児島千鶴様、菅原琴恵様、相馬京子様、赤井啓祐様、首藤明様、村中英子様、西城宏治様、草野哲也様、中川晴美様、土屋潤様、米倉晃子様、丸山礼子様、植野圭様、永海眞理子様、渡辺亜弥子様、岩田幸子様（順不同）

みなさま、今年も温かいお気持ちを繋いでくださって、ありがとうございました！



かなみのもり
特定非営利活動法人　奏海の杜

法人本部 (2017 年 7 月 1 日より新住所)
〒986-0775　宮城県本吉郡南三陸町志津川廻館 69 番地 15
にこま～る中田
〒987-0602　宮城県登米市中田町上沼西桜場 32 番地 1
事務局電話：0220-44-4171　FAX：0220-44-4841
メール：hisaitikouen@yahoo.co.jp
ブログ：http://blog.canpan.info/hsc_kenpoku/
facebook：https://www.facebook.com/kanami2012/

役員：【理事長】太齋京子【理事】菊池ふさ江 飯嶋茂 栗原洋一 箕田朗子 佐々木真【監事】大森幸江
職員総数（2017/3 末）：19 名（子ども広場 常勤６名、非常勤５名、福祉仮設 常勤２名、非常勤６名）

特定非営利活動法人 奏海の杜

2016 年度　事業報告書・決算報告書

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

障がいがあってもなくても
誰もが自分らしく暮らせる地域に。

【総括】
本年度は、南三陸町に子ども広場にこま～るを開所して2年目であり、平成27年4月から受託した南三陸町入谷福祉仮設住宅管理運営事業の最終年度でした。南三陸町では、三陸道のインターチェンジが2箇所開通し、志津川と歌津の商店街が本設で再開しました。町内を縦断する国道45号の整備や町内中心部のかさ上げ工事も進み、年度末には災害公営住宅も全戸で整備を終えています。このように急速に地域が変わっていく復興時にあって、私たちの活動は生活基盤を支えるライフラインであることを念頭に、安心安全な日常を創ることに邁進してまいりました。南三陸町の平成28年度は、緊急時から日常へ大きく変わる転換期だったと言えます。このような地域の変化に伴って我々の活動も、緊急時を支える一過性のボランティア団体から将来を見据えて伴走できる地域資源へと根を張る時期になってきました。平成29年度は改めて、法人理念のイメージを深めて活動として具現化し、障がいがあってもなくても誰もが自分らしく暮らせる地域へ向かって、職員一丸となって取り組んでまいります。

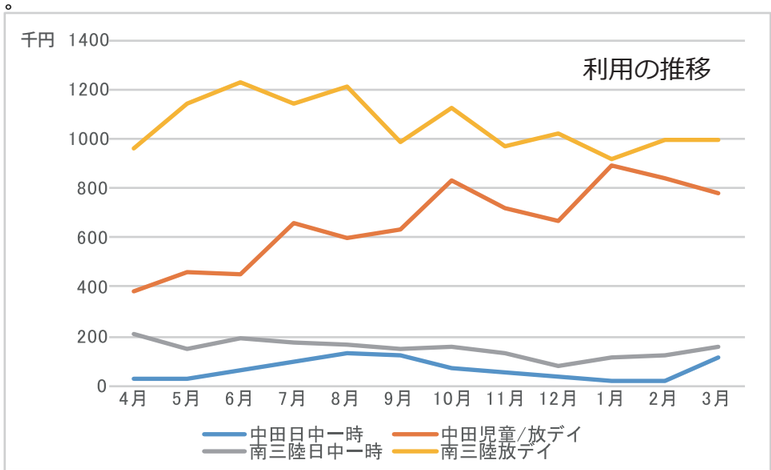
今年もとっておきの音楽祭

大阪の方々と交流会

素敵な音色にうっとり

〈 にこま～る 〉

子ども広場にこま～るは、南三陸町入谷と登米市中田の２箇所で運営を続けました。にこま～る南三陸では昨年度同様、制度に基づいた学童期の放課後等デイサービスと在宅障がい者、引きこもりの方々の日中活動支援、障がい者の余暇支援を続けました。南三陸町の人口減少（震災前と比べて 29% 減）に伴って支援者も利用者も少なく厳しい運営状況でしたが、関係者の方々のお力添えもあり、子ども達の居場所を作り続けることができました。利用者２名で始まったにこま～る中田は、広報活動が行き届かない中ではありましたが、ご縁で地域の加賀野小学校と関わることができ、利用者が大幅に増えました。平成 29 年度は、保護者の方々や関係各所のご理解のもと、にこま～る南三陸をにこま～る中田へ集約し、法人の地力を高める時期にいたします。内部的には支援コーディネーターやファシリテーターの手を借りつつ、支援内容や支援体制の充実を図ります。これまではレスパイト色が濃かったのですが、今後は本人の気持ちに寄り添い、生活の自立や将来の就労を意識した活動内容を組み立ててまいります。またパンフレットを改定して支援学校などへの広報を進め、活動場所を快適な空間に改修し、より地域へ開けた事業所を目指します。



〈 入谷福祉仮設住宅 〉

入谷福祉仮設住宅は、昨年度末まで登米市南方にあった福祉仮設住宅との集約で、今期は入居者８名から始まりました。入居者は災害公営住宅の整備や入所施設の空きなどにしたがって徐々に福祉仮設を退去し、年度末までに全ての方々を新生活へ送り出すことができました。新生活への移行に際しては、身内の方々や社会福祉協議会、相談支援事業所、病院など関係各所と支援会議をもち、情報共有とスムーズな移行に努めました。ただ、災害公営住宅には平成 29 年５月現在 100 戸ほどの空きがあり、コミュニティの構築が難しくなっています。移動手段や生活に制限がある方々が孤立を深めないよう、見守りを続けていく必要があります。包括支援センターや社会福祉協議会が中心になり、私たちも連携を続けてまいります。

表現する楽しみを意欲へ

長期休みには社会見学へ

入谷福祉仮設住宅

〈 地域交流 〉

障がい児・者本人たちの意欲の向上と、地域への障がい理解を広め深めるため、今年度も積極的に地域との交流を図りました。主なものは、６月のとっておきの音楽祭、８月のせんだい☆なう、10 月のハロウィンイベントなどがありました。特に新しい試みで 10 月から行ったにこカフェ（研修に表記）は地域の方々の参加もあり、今後も地域域交流の柱として続けていく予定です。（地域交流活動 44 回）

ハレバレーの方々と交流

ファミレスでランチ会

せんだい☆なうで地下鉄に

消防署や交番など見学に。
地域の方々にお世話になりました

大阪での交流祭、
今年もブースをいただきました

ゆるく楽しく地域交流の
にこカフェ

〈 スタッフ研修 〉

障がい特性の理解や具体的支援の方法など、実際の支援に直結する研修に加え、今年は組織創りに関する研修を受講し、継続的な支援について考えました。特に 10 月より月１回開催してきた「にこカフェ」は、外部講師による「ソーシャルスキルトレーニング」を学ぶ機会となり、職員だけでなく保護者や地域の方々にも足を運んで頂けた事は、地域に根ざした活動への大きな一歩になりました。（スタッフ研修 59 回）